

した。

大友宗麟との関わり

田原親賢の妹（一説には姉ともいう）、奈多鑑基の娘大友義鎮（宗麟）の正室（正妻）となっている。

弘治三年（一五五七）六月から天正九年（一五八一）

し、親賢は豊前妙見岳城督（現宇佐郡院内町北部、標高四四メートル）として宇佐・上毛・下毛郡を拠点に前経営にあたり、成功した。

武藏今市城は永禄年間（一五五八〜七〇）、大友義鎮里臣吉弘鑑理が居城した。鑑理は左近大夫と称し、武にすぐれた武将であった。鑑理は、のち石垣原合戦で唯した吉弘加兵衛統幸の祖父にあたる。

小禄元年（一五五八）閏六月、大友義鎮の嫡子義統がまれた。

従って、親賢は大友義鎮とは義兄弟、義鎮の嫡子義統は伯（叔）父と甥の関係にあたる。

親賢は大友義鎮（宗麟）・義統父子に仕え、親族及び側として影響力をもっていた。

二十三代

義統（吉統）——義乘

親家（利根川道孝、松野氏）

親盛（親賢の養子、東松野氏）

基——直基（養子、久我氏）

田原氏へ養子）

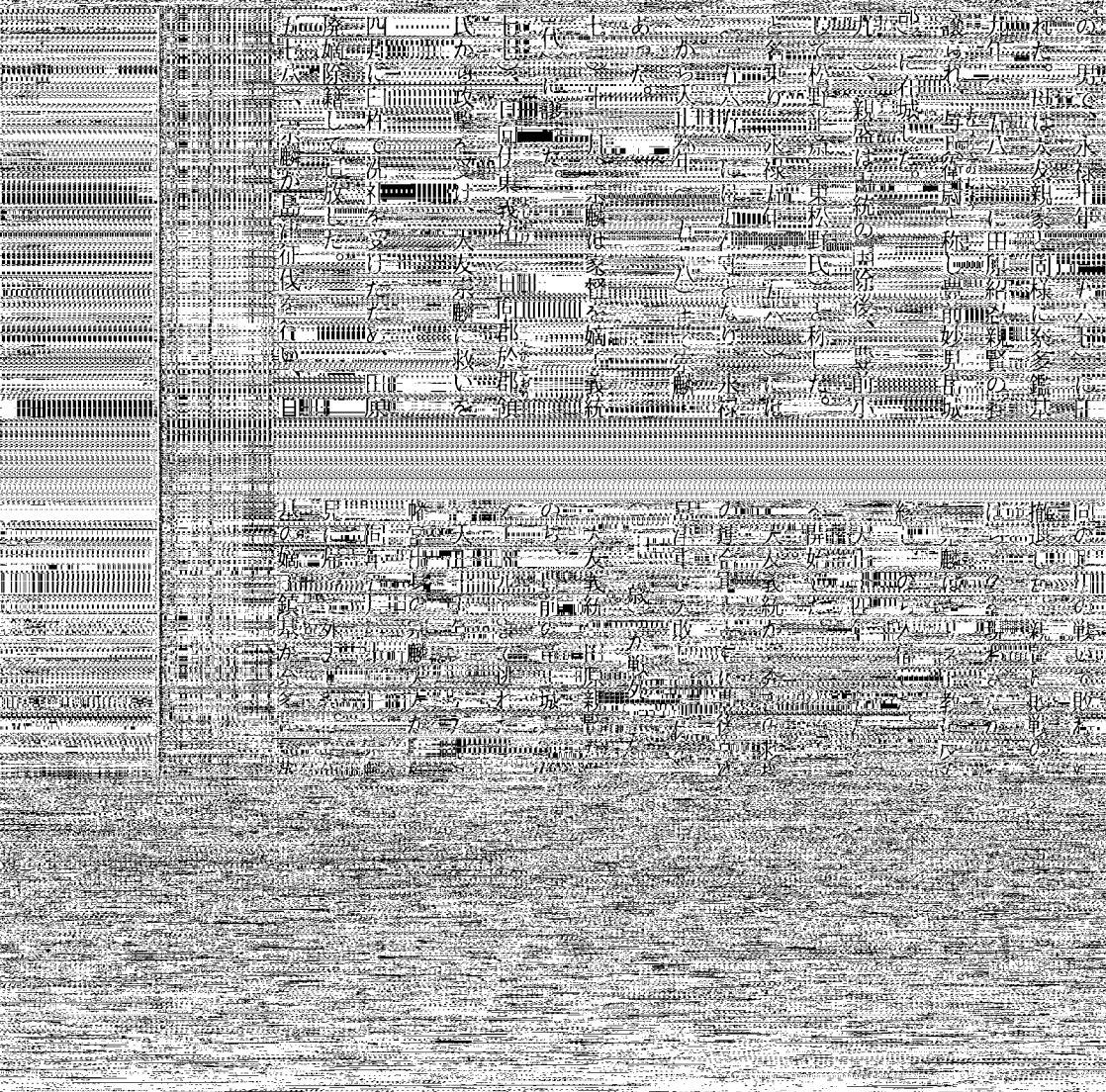
我鎮の正妻）

貞（親賢）

親虎（廃嫡、柳原氏）

親盛（宗麟の三男）

母



干いて
貝はし

六を離

の侵入

た四国

以いで
のちかの
信親

逃れて

二一五

八多八

津久

八多政

有吉立行の軍勢
即右衛門之房ら

細川軍は実相

と対峙した。九

甲が優勢であつ
たをおさめた。

つをはじめ、多

したが田原紹忍
率衣の姿になり、
した。ちなみに、

東軍の徳川家

られ、家康から
た。

原紹忍親賢と宗
て石垣原合戦の

